

2009年の大森山動物園 風を感じて

秋田市大森山動物園園長 小松守

長い冬が明け、北国秋田のお日様にも力強さが戻り、春の風に心地よさを感じます。人も動物も活気を帯び、動物園のあたりには、開園を待つ子どもらの声が響いています。

2009年のシーズン、大森山動物園ミルヴェは引き続き「動物と語らう森」をテーマに活動していきます。

今シーズン特に力を入れたのは、イヌワシとフクロウによって、2つの風を感じてもらう取り組みです。この取り組みを実現すべく、現在、飼育員と動物が一体となってトレーニングに励んでいます。

展示場でネット越しに見るのとは違い、イヌワシが力強く羽ばたく様子を目の前にすると、イヌワシの風と生きる力が感じられます。フクロウが静かに飛ぶ姿とその柔らかな風には、フクロウらしい軽やかでエレガントな命を感じることができると思います。

もちろん、こればかりではありません。来園者の皆さんが少しでも動物との語らいができるよう、いろいろな角度からその橋渡しをしたと考えています。

その一環として、この春、草食動物のゾーン内に財団法人日本宝くじ協会から寄贈を受ける新しい施設「(仮称)宝くじ遊園(大型遊具)」が完成します。昨年の暮れから工事が始まっており、4月にお披露目が予定されています。

遊園(遊具)といっても、単なる遊びのアイテムではありません。いろいろな角度、視点からワピチやトナカイ、マーコールなどの草食動物をご覧いただけるように工夫が凝らされており、見学通路や施設としての機能も兼ねています。動物との新たな出会いを演出するとともに、楽しみながら動物のことが学べる施設です。「宝くじ遊園」の真ん中にひときわ高くそびえ立つ「たいようの塔」からは、新しい景色の発見と新しい風を感じることもできるでしょう。

また、5月には社団法人日本動物園水族館協会の総会が秋田市で開催され、大森山動物園がそのホスト園を務めることが既に決定しています。例年以上に忙しくなりそうですが、全国の動物園・水族館の関係者が集まるこの好機に、いろいろな助言をいただきながら、秋田の動物園を全国に発信する機会にもしたいと考えています。

さらに、大森山動物園を未来に向けてつなげるためにも、様々な機会に市民の皆様と意見を交わすシーズンにもしたいとも考えています。

動物園スタッフ一同、新しいシーズンもご来園の皆様を笑顔でお出迎えいたします。

今シーズンもご愛顧、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



昨年3月に生まれ、人工育雛に取り組んでいるニホンイヌワシの「風(ふう)」



ピクニック広場でフライト・トレーニングに励むホンドフクロウのフクジロウ



【上】順調に工事が進む「(仮称)宝くじ遊園」一番高い施設が「たいようの塔」

【左】「(仮称)宝くじ遊園」の完成予想図
※施設名や動物展示は一部計画と異なります。